

新世代の挑戦

ジャパンメディック
(富山市)

社長
前田 和也 氏 (38)



創業71年目の医薬品メーカーの3代目。1982年生まれ。富山中部高、一橋大を卒業後、2005年に旭化成に入社し透析用フィルター販売の海外営業を担当した。15年に退社し、ジャパンメディックに入社。19年に父から社長を継いだ。製剤開発力を生かし、O T C (薬局・薬店向け)の外用剤販売に力を入れている。

—旭化成ではドイツで6年間勤務されました。言葉の面で苦労はなかったですか。

さまざまな人種が集う欧州では英語が共通言語ですが、社会人になるまでほとんど話せませんでした。入社後、海外営業部に配属されたことをきっかけに自費で英会話教室に通い、話すこと・聞くことを繰り返しました。おかげでビジネス会話なら何とか対応できるようになりました。それと、現地で心掛けたのは笑顔でいること。笑顔は国境を超えると信じてコミュニケーションを楽しみました。

—文化や価値観の違いは感じましたか。

日本人同士なら曖昧な表現でも伝わりますが、文化的背景が異なる外国人の場合はそうはいきません。「察してもらえはるはず」は通用しない。誤解を防ぐには、できるだけロジカル(論理的)に順を追って説明することが大事です。最近では日本でも価値観の多様化が進んでいます。自分の当たり前が必ずしも相手にも当てはまるとは思わないよう心掛けています。

—会社を継ごうと思ったきっかけは。ドイツでの仕事にやりがいを感じてい

感動を分かち合う

ましたが、赴任期間が終わって帰国することになりました。年齢的にはちょうど30歳を過ぎたあたり。人生を見つめ直し「この先どうやって生きるか」と考える中で、自分のチームを持って大きなことを成し遂げたいと思うようになりました。幸運なことに自分には家業の会社があり、目標とする生き方を実現するため富山に戻りました。

—チームを持ちたいという気持ちの原点は。

サッカーが好きで、小中高校、大学と続けてきました。大学4年生の時は選手兼監督で、チームをまとめる立場にありました。リーグ昇格を目標に練習に打ち込み、大一番の試合で勝利を収めました。試合終了が決まった瞬間、うれしくて思わず仲間と抱き合いました。あの時の感動は今も忘れることができません。

会社という組織も一つのチームだと思うんです。力を合わせて目標に向かって頑張るからこそ、結果としてのうれしさや悔しさを味わえる。仲間である社員と感動を分かち合えるような仕事に挑みたいです。

(聞き手 熊谷浩二)

—随時掲載

(第3種郵便物認可)

北 日 本

高保湿成分のヘパリン類似物質^①を配合したスキンケア商品の市場が拡大している。県内メーカーもOTC(薬局・薬店向け)医薬品の製品を相

次いで投入し販売を強化する。追加成分の配合や剤形の工夫で付加価値を高め、差別化を図っている。

(熊谷浩二)

へパリン肌ケアの鍵

とやま経済

県内メーカー 保湿剤 販売強化

ヘパリン類似物質は乾燥肌の治療薬の有効成分として知られる。ジャパンメディック(富山市横越)は2018年、OTCでは初めてとなる油性タイプのヘパリン類似物質のクリームを開発。市場投入したところ、保湿効果の高い医療用と同じ油性タイプということで注目を集めた。市場が活気づき、他社が追

随する契機になった。

今年11日は既存の油性タイプに、肌の修復を促す2種類のビタミンを配合した複合剤「ヒルメナイド油性クリームプラス」を発売。ドラッグストア大手のマツモトキヨシとの共同開発品で、マスクの着脱などで荒れた肌のケアなどに活用してもら



新製品の「ヒルメナイド油性クリームプラス」をPRする前田社長(左)とジャパンメディック



©2020 San-X



新新薬品工業が開発した「ヒルメナイド油性クリームEX」

日東メディックの「あわわへパリンイドフォーム」

成分・効能で付加価値

新新薬品工業(同市今市)も複数の有効成分を加えたヘパリン類似物質の複合剤「ピアリンHP油性クリームEX」を昨年10月に発売した。肌に優しい商品イメージを伝えるため、外箱のデザインに子どもに人気のキャラクター「すみっコぐらし」を取り入れた。キャラの知名度を生かした販促効果も期待する。

剤形の工夫で差別化を図るのは日東メディック(同市八尾町保内)。薬剤が泡で出せる「あわわへパリンイドフォーム」を開発し、同12月からオンラインショップで販売を始めた。液だけに、患部に塗り広げやすい点売り込んでいる。

ジャパンメディックは19年にヘパリン類似物質の情報をまとめた専用サイトを開設し、効能や剤形による使用感の違いを解説している。同社の前田和也社長は「保湿はスキンケアの基本。市場はまだまだ拡大する」と期待している。

スチーム

ヘパリン類似物質、保湿や血行促進、抗炎症作用などがあり、乾燥肌の治療薬に使われている。皮膚科などで処方される医療用医薬品では「ヒルメナイド」が有名。保湿成分として知られる尿素よりも高価だが、皮膚への刺激が少なく、敏感肌にも使いやすい点がメリットとされる。